

総括

—— 切る力・つなぐ力としての良心 ——

1

Overview

1. 「壁」を越えるために
—— 「日本脱出の理由」を踏まえて
2. 良心を再定義する

2

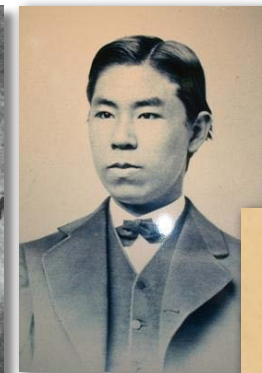
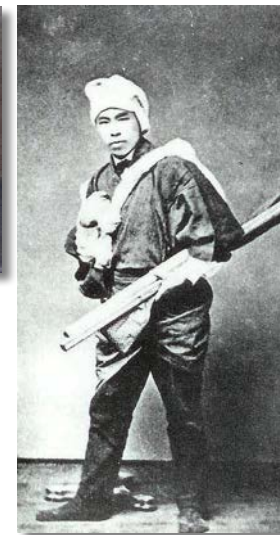
1

「壁」を越えるために
—— 「日本脱出の理由」を踏まえて ——

3



1843
誕生



1864
脱国



1890
死去

4

冒険的生涯

良心とは？

倜儻不羈

5

脱国までの新島襄

- 幼年期・青年期の新島
- 21歳まで江戸の安中藩邸内で暮らす
- 空間的な制約：鎖国
- 時代的な制約：封建的な社会秩序



6

新島の新しい一歩

- 「壁」を乗り越える、「運命」を切り開く
- 「自由」を求めて



7

なぜ日本を脱国したのか？

- ボストン到着後の新島がハーディ夫妻に宛てた手紙
- 「日本脱出の理由」（原英文、1865年）
- 強い知的好奇心・探求心
- 「創造者なる神」との出会い：世界観の変化
- 自由への強いあこがれ



8

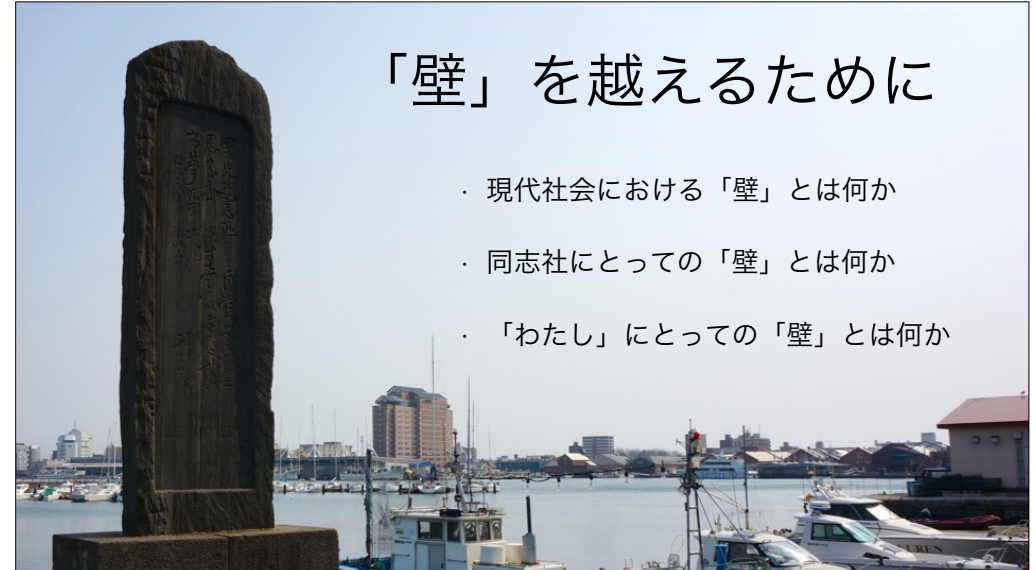
しかし、私はためらった。祖父や両親を悲しませるだろう、との思いがあったからだ。その思いがしばらくの間、私の心を捉えた。けれども、やがて別の考えが頭にひらめいた。それは、私は両親から生まれ育てられたが、本当は私は天の父のものである。それゆえ私は天の父を信じ、その父に感謝し、そしてその父の道を進まなくてはならない、という考えである。こうして私は日本から連れ出してくれる船を探し始めた。（「日本脱出の理由」1865年、『新島襄自伝』25頁）

👉『新島襄365』【4月24日】

9

「壁」を越えるために

- ・ 現代社会における「壁」とは何か
- ・ 同志社にとっての「壁」とは何か
- ・ 「わたし」にとっての「壁」とは何か



10

2

良心を再定義する

11

現在の同志社の教育理念

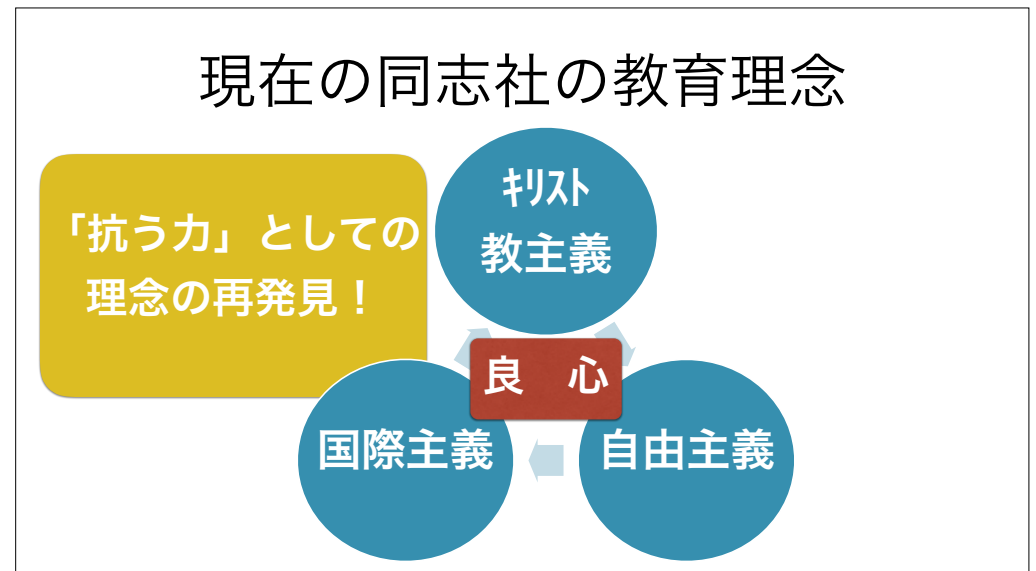
「抗う力」としての
理念の再発見！

キリスト
教主義

良 心

国際主義

自由主義



12

真理似寒梅敢侵風雪開

- ・ 新島の漢詩。真理は寒梅のごとし。
あえて風雪を侵して開く。
- ・ 時代の趨勢に抵抗できる精神。抵抗の原理とならない精神に、真理性はない。



同志社大学 寒梅館

13

新しい価値の創造——先取の精神

私たちの学校をもっとも魅力的なものにするためには、ほかの学校に遅れをとらないこと、それどころかさらに先に行くことが、絶対に必要です。

（「アルフィーアス・ハーディー宛」手紙、1879年、『新島襄の手紙』154頁）

👉『新島襄365』【7月2日】

14

キリスト教

良心とは？

世俗社会（啓蒙的価値）

15

【復習】現代における「良心」

- ・ 自分自身を深く振り返り、「個」の強度を高める「良心」
（内に向かう良心、個人的良心）
- ・ 共同感覚としての「良心」（外に向かう良心、社会的良心）
- ・ 国家主導の「道德教育」と一線を画する「良心教育」
（良心の越境的・対話的次元）
- ・ 地域・世代を超えた「共に知る」ことの実践（良心の共同体）

16

良心の実践者となるために必要な力

- ・ **切る力 (disjunctive power)** としての良心
 - ・ 「自治自立の人民」（同志社大学設立の旨意）☞ 『新島襄365』【1月17日】
 - ・ 「同志社においては^{てきとうふき}倜儻不羈なる書生を圧束せず、努めてその本性に従い、これを順導し、もって天下の人物を養成すべき事。」（遺言）☞ 同【3月26日】
- ・ **つなぐ力 (conjunctive power)** としての良心
 - ・ 「人一人は大切なり。」（同志社創立10周年、1885年）☞ 同【12月3日】
 - ・ 地方教育論（1882年）☞ 同【8月2日】